

シンナガサキミーティング開催レポート

i n 高島小学校区



令和5年10月10日（火）、自治会や民生児童委員、地元事業者、地域おこし協力隊、市民団体など12人の皆さんにお集まりいただき、高島小学校区の「シンナガサキミーティング」を開催しました。

参加者の皆さんからは、「まちあるき双六大会」や「UMIBOUZ IN 高島」など高島の魅力を活かした取り組みや、離島特有の課題、暮らしの中で感じていることなどをお話いただきました。



いただいた意見

①市営住宅の集約移転について

老朽化した市営住宅の「集約移転」がさまざまな事情で進んでいないが、今後の予定はどうなっているのか。

市の考え方・回答

市営住宅の集約移転については、移転先となる高島光町住宅ABC棟の空き住戸の修繕を進めるとともに、移転希望者を対象に、順次移転に向けて事務を進めています。

移転にあたっては、長年の家財道具の整理や処分、運送業者の手配等に一定の期間を要するので、各入居者の準備が整い次第、移転していただいています。

②コミュニティバスの更新について

島内のコミュニティバスのうち1台が老朽化で運行出来ていないが、バスの更新はどのように考えているのか。

市の考え方・回答

島内のコミュニティバス運行は中型バス（57人乗り）2台とのマイクロバス（19人乗り）で行っています。

繁忙期となる夏季の移動需要へは、高島の振興のためにも重要なことと認識しています。

一方で、人口減少や燃料価格高騰等により、コミュニティバスの運行に要する経費は年々増加します。限られた財源の中で運行を継続するには、より効率的な運行が必要です。例えば繁忙期のみ中型車両をリースできないか検討するなど、引き続きバス事業者とも協議したいと考えています。

③公共交通機関利用者の負担軽減について

長崎－高島の航路運賃は、同等距離のバス運賃と比較して1.6倍以上となっている。利用する公共交通機関によって市民の負担に大きな差が生じないように、個人負担を軽減できないか。

市の考え方・回答

路線バスと航路では運行(航)にかかる経費が大きく違い、1キロ当たりの経費では航路の方が7倍以上高くなっています。

令和5年10月の運賃改定の際には、住民の負担を軽減するために行政の補助による「島民割引制度」を導入しました。今後も積極的なご利用をお願いします。

そのほか「移住促進のためには受け皿づくりが重要」「世界遺産や軍艦島などの観光資源を高島の活性化に活かしてほしい」などのご意見をいただきました。

いただいたご意見は、担当部局と共有し、今後の市政運営に活かしていきます。

鈴木市長のひと言

高島は離島ならではのハンディキャップを持っているし、離島ならではの深刻な問題を抱えているなと思いました。

本土の発想でやるとうまくいかないことが多いので、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。



参加者からの感想

色んなことを聞いていただいて良かったです。市としてできることをやってほしい

住民の話を丁寧に聞いていただけたと思います。今後に生かされることを期待します。

皆さんがいつも考えていることが話ができたと思います。

地域、相手の立場に立ち、原点に帰って考えてほしい。高島、よろしくお願いします。

